

令和6年度 第2学期終業式 講話

冬季休業期間を迎えることとなりますので、第2学期の終業式を執り行います。

この第2学期は、体育大会、白魚祭（文化祭）と学校全体で関わる二つの大きな行事が営まれました。特に、体育大会は、初めて奈良尾総合体育館での開催となったことから、熱中症も含めた安全対策はもちろんのこと、種目の作成・選定等に対しても、生徒会を中心にしっかりとした準備と対策が講じられました。また、本校の教育活動において中核を成し、地域課題の解決に向けた探究活動である2年生のパブリックワークでは、学びを深めて実際に地域社会と連携を進める一方、発表会の際には「この活動を通じて学んだこと」を整理する取組も見られました。さらに、3年生による奈良尾地区での販売実習では、マーケティングに繋がる独自の会計システムを協働して創り上げ、清算の迅速化を図るとともに、仕入れから販売・在庫管理までを俯瞰できる体制を整えました。卒業を間近に控えた3年生の皆さんには、従前からの課題に向き合い、発展的解消を図ろうとする姿勢やノウハウを、後輩に引き継いでいくことを期待します。

ところで、例年、師走に入ると、報道等を通して「振り返る」という言葉を頻繁に聞くことがあるのではないかと思います。「振り返る」とは、自身やチーム等の行動や結果を顧みながら出来事を客観視し、良い点を更に伸ばすとともに改善すべき点は施策を検討して次の成果に繋げようとするものであります。日々の授業に

においても「振り返り」が行われていますが、経済産業省が提唱する「人生100年時代の社会人基礎力」に、「能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要」と記載されています。ここで用いられている「リフレクション」という言葉については、自身の行動や活動等を客観的な立ち位置に立って見直し、自ら考え新たな気づきを経て次のアクションに繋げていくものと捉えられています。さらに、その手法は様々考えられていますが、まずは「書き出す」ことが効果的であるとされます。「書き出す」ことにより、内容や考えを整理しやすく、記録に残せるため見返すことが可能となります。

終業式が終わると、各学級においてキャリアパスポートに「2学期の目標設定と振り返り」について記すこととなります。本学期の活動を通して自ら考えて得た「新たな気づき」を明確にしながらか取り組んでください。加えて、1週間後には新しい年を迎えることとなります。諸説がありますが、室町時代後期の武将毛利元就がその子息に送った手紙の内容に由来するとされる「一年の計は元旦にあり」という言葉を耳にしたことがあると思います。何事も最初が肝心であると言われるが、「一年の計」を立てるに当たり、これまでの学びや活動を通して得た「新たな気づき」を踏まえ、目標や計画を書き出して「可視化」できる状態で、第3学期を迎えることを期待します。冬季休業中は、気持ちを引き締めて事故等に留意し、充実した日々を過ごしてください。